法律相談12/16(水)
税金相談12/17(木)

インボイス相談も
同日に受け付けます。



詳しくは支部へお問合せ下さい。

けんせつ北部

（購読料は組合費の中に含まれています。）　定価三十円

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋5-22-15
電話　豊島（3986）2471
北　（5390）6021
板橋（3963）5325
練馬（3825）5522
発行人　寺島　耕平
発行予定日　毎月4回
1日、9日、17日、25日



釣りレクに青年部の仲間と参加



釣ったカワハギと高浪青年部書記長

後継者対策部のカワハギ釣りレクに青年部の仲間と参加しました。初めての船釣りにカワハギ釣りと、ワクワクとドキドキでいっぱいでした。初めは自分にも釣れるのか少し不安もありました。そんななか、出船前に受けた船長のレクチャーを実践し、釣りの経験のある仲間が我々若者の面倒を見てくださったおかげで、安心して釣りに集中することができ、無事にカワハギを釣ることができました!

持ち帰ったカワハギもそこそこ綺麗に捌けました。初めての船釣りでしたが、とても楽しく、貴重な経験になりました。ぜひ次回も参加させていただきたいです!ありがとうございました!

高浪裕平支部青年部書記長（池袋分会）



本部ボウリング大会
豊島支部予選会



南池袋分会所属、実習生の仲間達

10月25日（日）に本部ボウリング大会に向けて豊島支部予選会を開催しました。

当初は組合さんの声掛けをしても、なかなか人数が集まらなかったボウリング大会ですが、各分会で直前まで声掛けを続けて頂いたところ26人の参加となりました。19才から28才のインドネシアからの外国人実習生を含む7人組が参加してくれたことで活気に溢れ、末政さん（椎名町分会）は4連続ストライクを記録しおおいに会場を沸かせました。全分会から5人、6チームの参加とはなりませんでしたが楽しい予選会となりました。

懇親会ではベテランと若者と席が離れてしまいましたが、外国人実習生の皆さんにも決勝への参加をお願いしたところ、笑顔だったのできっと引き受けてくれることでしょう!

優勝は増田さん（池袋分会）でしたが、来年1月31日(日)の本部ボウリング大会に向けて今回参加してくれた皆さんに極力参加して頂けるように早目に声掛けしていきたいと思います。

鈴木公一郎支部後継者対策部長（池袋分会）



分会を越えて楽しく交流



椎名町分会のみなさん



上池袋本町分会のみなさん



かなめ分会のみなさん



豊寿クラブのみなさん



さくら分会のみなさん



池袋分会のみなさん



南池袋分会のみなさん



PALの会のみなさん

秋の仲間づくり運動で96人の新しい仲間が加入
10月30日に支部にて拡大打ち上げを開催



女性の会のみなさん

9月、10月と新しい組合員を増やす運動として、支部を挙げて取り組んだ秋の拡大月間が10月末日をもってひとまず終了しました。2か月という期間をもうけ、分会はもとより、女性の会、豊寿、青年部等の団体が各自で拡大目標を設定して、目標達成に向けて仲間への訪問行動、チラシ配り、電話かけなどを行いました。膠着化した中東戦争による、材料不足や値段の高騰が、建設業を逼迫させる情勢のなか、訪問行動で仲間を取り巻く状況を聞き取り、そうした声を国や自治体へ届けながら、同時に豊島支部主催の日曜集団検診を勧めたり、国保組合への都費、国費補助金額を決定するハガキ要請行動への協力を呼びかけました。

8月23日の、本部徳山組織部長を講師に招いての活動者会議と出陣式、同30日の日曜日統一行動を皮切りに、15日間の平日夜間の統一行動や、平日6日間の日中の事業所訪問行動、10月4日のソフトボール大会と池袋パルコ屋上での中間決起BBQパーティーなど、新しい仲間を増やすための様々な取り組みの結果、全地域分会、青年部、女性の会、豊寿クラブ、PALの会が加入目標を達成して、本部・支部目標を達成しました。

全分会目標達成賞＝全分会
拡大率トップ賞＝上池袋本町分会（7.10%）
1/1現勢実増賞＝上池袋本町分会・池袋分会
達成一番乗り賞＝上池袋本町分会
持ち寄り賞＝椎名町分会

本部青年部 フットサル大会に参加して



10月11日（日）、ミズノフットサルプラザ味の素スタジアムにて、東京土建青年部主催の「本部青年部ワールドカップ」と題したフットサル大会が開催され、全支部の青年部員が集まりました。今回は声かけの成果もあり、豊島支部から青年部員でもある、会社社長が仲間2人を連れて参加してくれたことが、とてもうれしかったです。当日は、各支部が声を掛け合い、熱気あふれる大会となりました。スポーツを通じて一緒に汗を流し、支部を越えて交流できることは、青年部活動の魅力の一つだと改めて感じました。こうした機会をきっかけに、仲間の輪がさらに広がっていけばと思います。大会では、他支部の仲間たちのプレーやチームワークにも刺激を受け、楽しく充実した時間を過ごすことができました。1勝もできず、引き分けが多い結果となりましたが、勝ち負けだけでなく、同世代の仲間と交流し、つながりを深められたことも大きな収穫でした。参加してくれた仲間からは「来年は優勝しよう！」という力強い言葉もありました。その言葉を励みに、来年はさらに多くの仲間と参加し、優勝をめざしたいと思います。これからも青年部の活動を通じて仲間の輪を広げ、楽しく活気ある活動につなげていきたいです。

川口和也青年部担当書記

福生市民大ホール・横田基地もいらない！沖縄とともに声をあげよう
10・17市民交流集会に参加



10月17日、福生市民会館大ホールで、「横田基地もいらない!沖縄とともに声をあげよう 10・17市民交流集会」が開催され、労働組合や平和団体などから約500人が参加しました。

主催者の菅原一茂さんが「横田基地の増強に次いで、防衛費のGDP（国内総生産）比2%超え、軍事産業を推し進め、武器輸出で金儲けをする「死の商人」に日本をさせないよう行動していきたいと挨拶しました。

午前中は、沖縄県石垣市で陸上自衛隊の配備の可否を問う住民投票の実施を求め、六年間にも及び挑み続けた若者たちを描いたドキュメンタリー映画「拝啓・住民投票さま」が上映されました。本来は実施されるべきはずだった住民投票が市や裁判所の意向で封じられてしまったのです。湯本雅典監督が憲法改悪の危険が地方自治体まで迫っていると訴え、危惧します。

午後の部では、武器取引反対ネットワークの杉原浩司代表が、「死の商人国家に落ちぶれる日本」と題して講演しました。武器輸出の解禁で「日本製武器が国際法違反の虐殺に使用されるリスクが高まっている、更に軍事ドローンなどの共同開発や新興企業の参入など、軍事産業の育成に踏み出し官民一体での武器輸出を推進している」と告発しました。

憲法9条を持つ国としてあるまじき行為です。死の商人の法案を止めるための最大の力は、私たち国民が「改憲反対，大軍拡反対」の声を上げつづけることだと思っています。

最後に実行委員会から窪田一忠事務局長が「憲法違反の戦争への道を国民の力でやめさせよう」と訴えました。集会終了後、学びを力に繁げて元気にパレードしました。

間辺美恵子通信員（南池袋分会）

労働学校を開講

「新自由主義とたたかう労働運動を強く長く」をテーマに



今年度最初の労働学校を支部会館で10月18日に開催し、20名の仲間が受講しました。講師には久しぶりになる東京学習会議の千葉光先生を招き、「新自由主義とたたかう労働運動を強く長く」をテーマに学習しました。

冒頭で、「強く長く」たたかうための健康法として、深呼吸についての説明から講義を始め、新自由主義や、それに抗する労働運動を経済的政策批判や運動論にとどめず、人間とは、自由とは、社会とは?という視点で根源的に深堀りする、哲学的なアプローチの必要性を強調するために、うたは哲学だ!として、河島英五の「生きてりゃいいさ」を歌うなど、縦横無尽の講義のおかげで難しい課題に、参加者全員が自然に向き合えた学習会でした。講義は午前中で終了し、そのあとの昼食を兼ねた懇親会でも千葉先生を囲み、多くの意見や質問が出ました。第2回目の労働学校を予定しています。

新自由主義の考えでは、組合活動はできないと思います。また、組合活動の歴史や過去の運動など、新自由主義と逆の運動をしていく大変さがわかりました。その壁に立ち向かっていかなければならないと思いました。

宮本卓廣さん（豊島支部執行委員長）

人間は活力より回復力が大切。深呼吸。新自由主義は、ストレス（アドレナリン）が出続けている状況だ。2007年以降の構造改革で、労働者層は収入が減っている。労働運動はバトンの繋りが大切だ。労働組合運動について時間の開係で割愛されてしまいましたが、次はもう少し時間を作って欲しいです。

土橋博典さん（豊島支部副執行委員長　さくら分会）

千葉先生の熱のこもった話、今日、来てとても良かったと思います。歌がとても上手でびっくりしました。また、学習会に来たいと思います。

伊藤寿さん（豊島支部教宣部長　池袋分会）

自由主義の危うさが中心で組合運動にどうつながるのか判らなかった。基本経済の話でも、どうした方がいいのかの話しが少なくて方向性がわからない。どこを運動につなげるか判らない。重複しますが、新自由主義をどうすれば組合運動につなげるか?

若林光徳さん（上池袋本町分会分会長）

労働組合は団結・連帯・優愛との理念で運動をすすめていくという、根幹の部分での考えかたを忘れずに活動していければと思いました。懇親会でも数名の方が千葉先生に、組合は今後どうしていけばいいのか?という質問をぶつけていましたが、先生の答えとしては「同じ組合員からの同じ目線による丁寧な対話が絶対に必要不可欠」とのことでした。業界不況が長年続く建設業において、建設職人一人一人との対話が最重要なんだという事が改めて分かりました。

寺島耕平主任書記

その他の参加者の感想文は次号に掲載します。



労働学校のあと昼食を兼ねた懇親会を開きました